

「秋の東北鉄道旅行 (14)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

秋田駅は、東京のターミナル駅のようにごった返してはいないが、華やかで活気のある印象を受けた。残念ながら「完全に乗り換え」だけの利用だったので、市内観光をする時間はなかった。



新幹線の改札口付近は、乗り換え客や観光客で結構賑わっていた。「竿灯」の飾りつけがあり、お祭りの雰囲気を演出している。市内を見る時間がなかったので、これで秋田観光の雰囲気を楽しめた。



秋田駅には大きなお土産コーナーもある。目玉は「竿灯関係」や「なまはげ関係」、「大曲の花火大会関係」それに「秋田犬関係」が多かった。職場の人におみやげを買おうと思ったが、このあと新幹線で角館まで往復するので、荷物を増やしたくないこともあり、あとでもう一度寄ることにした。



最終的には、職場の仲間には「秋田ワン de カップ」というのを買った。コーヒーカップにひっかかる、かわいらしい「秋田犬型クッキー」だ。



角館に行く新幹線の発車時刻が迫ってきた。秋田駅での最も重要な仕事は「駅弁購入」である。幸い、「秋田の駅弁コーナー」が営業していた。



たくさんあって目移りしたが、「比内地鶏」を使った、名物「鶏めし」にした。お昼時だったので、新幹線の中で駅弁を開ける人が多かった。私も秋田の風景を見ながら「鶏めし」を楽しんだ。